

(2) 使い易い情報を

作る側から発信される情報が、受け手の側からはあまり評価されていないとも言われています。特に消費者に直結する量販店のバイヤーなどからは、仕入れ業務に関わりが無いとの不満が出ています。中でも情報の速さと内容の正確度についての指摘が多く見られます。彼らが求めているのは「欲しいときに、欲しいモノが、欲しいだけあれば良い」ということであり、それ以上でもそれ以下でもないというのが本音ではないでしょうか。これは作る側の求める消費地情報についても同じことが言えると思います。

相手に求めるときはいつも“直ぐに”やって欲しいが、逆のときには“間違いなく”が最優先して慎重さが前面に出てスピードダウンしてしまうことが多いのですが、速度が遅れれば遅れるほどにその内容も鮮度が薄れざるを得なくなり、結果として陳腐化した情報として評価してもらえなくなってしまいます。個々のものを収集して取りまとめる作業は、特に手間ひまの掛かるものであり、ナマの情報を加工することもある面では良し悪しともなってしまいます。ナマの情報をリアルタイムに与えて加工処理をあなた任せにすることもまた大切なことであり、T・P・O によっては試みることも必要ではないかと思えます。

情報の価値はそれを使いたい側が評価するものであり、折々に流れ来る情報がタイミング良く使われたときは“すばらしい”と言い、そうでない時には悪し様に言われるか無視されることが多いのではないのでしょうか。結果はともあれ、常に発信し続けることが必要でしょう。